

# フロンティア

あべ晋三後援会会報誌

FRONTIER



14号



この会報誌は、再生紙を使用しています。／この印刷物は、自然環境に優しい大豆油インキを使用しております。

# 明日に向かつて、美しい国を創ろう!!

## 再チャレンジ可能な、活力あふれる社会へ

小泉政権は、五年間に及ぶ長期政権となりました。小泉政権の五年間に対しては、様々な評価がありますが、私は小泉政権は大きな成果を上げたと思っています。

小泉総理が総理に就任した当時、日本の経済は非常に厳しい状況にありました。銀行は多くの不良債権を抱え、景気はマイナス成長という状況にありました。また日本政府は大きな借金を抱え、債務残高は年々増加していました。こうしたなかで、小泉総理は、「改革なくして成長なし」という大きなスローガンを掲げて登場し、そして財政の再建を睨みつつ、様々な改革に取り組んでいったのです。

その結果、例えば不良債権の比率は、大きく改善され、現在ではほぼ正常化されたといってもよい状態になりました。そして五・五パーセントにまで上がった失業率も、今では四・パーセント台に落ちついております。経済成長率についていえば、マイナス成長であったものが、二〇〇五年度には三・二パーセントのプラス成長に転じました。日本経済には、確

実に復活の兆しが現われてきております。

私は、次期政権の大きな課題の一つは、いかにして持続的な経済成長を実現していくかということであると考えております。そのためには、今後、二層の改革を進めていかなければなりません。これからの五年間は、小泉改革を第二期、さらに第三期へと進めていくための非常に重要な時期となるでしょう。今後五年間のうちに、我が国は確実に人口減少社会へと向かいます。総人口は、二〇〇六年をピークに減少に転じると予測されており、二〇五〇年には、現在の二億二千万人から一億人へと減少すると予測されています。人口減少社会のなかで、持続的な経済成長を実現していくためには、しつかりとした成長戦略を持たなければなりません。そうした成長戦略を考える上で、私は二つのキーワードを挙げたいと思います。それは「イノベーション」と「オープン」です。

人口減少社会という労働力不足の社会においては、なによりも高齢者と女性がこれまで以上に活躍できるような社会環境をつくりださなければなりません。それと同時に、産業構造を見直し、生産性を高めることにも腐心しなければなりません。そのためには、IT技術を駆使し、産業の高付加価値化を図らなければならぬのです。クリエイティブな精神やチャレンジ精神で革新的な技術、製品、そしてサービスといった様々なイノベーションを生み出していくことが必要です。私は、こうした分野に今後、計画的にしっかりと投資をしていきたいと思っています。

そしてもう一つはオープンです。経済政策としてのオープンには、二つの意味があります。一つは、外国に対して日本がオープンであるということです。つまり、外国の資本や企業が日本で自由に活動することができるようになり、より一層、諸環境を整

えていく必要があるという事です。もう一つは、日本とアジア太平洋諸国がともに成長していけるように相互にオープンであるということです。

現在アジアは、世界経済の「成長センター」として注目を集めています。国内では、消費者人口が減っていく中であつて、幸いにもアジアにはインド、そして中国という、さらに人口が増え、成長が見込まれる成長セン







官房長官として日本最大の繁華街、新宿・歌舞伎町を視察

ターを抱えています。アジア地域の人々を我が国の消費者として捉えるならば、我が国の消費者は今後も増えていくと考えてもよいのではないのでしょうか。こうしたアジアの成長を日本に取り込むためにも、日本とアジア太平洋諸国はお互いにオープンな国家になつていく必要があるのです。

現在我が国は、アジア諸国とEPA（経済連携協定）やFTA（自由貿易協定）を締結していく努力をしております。こうした動きはさらに加速させていくべきであると思います。EPAやFTAを拡大・強化することによって、我が国は持続的な成長を達成することができるようになります。その結果、我が国は、国民一人当たりのGNP（国民総生産）やGNI（国民総所得）をさらに拡大することができるようではないでしょうか。またインドやオーストラリアなども含めたアジア太平洋地域において、経済圏を確立していくことも必要なのではないでしょうか。しっかりと戦略を持つことによって、豊かな成熟した社会を迎えることができるものと考えています。

昭和三〇年代の日本では、多くの国民がまだ貧しかったのですが、努力をすれば豊かなことを知っていました。努力した者が報われる社会には希望があります。それは人

口減少社会においても、低成長時代においても同じことです。

私が進めている改革は、頑張った人、汗を流した人、一生懸命知恵を出した人が報われる社会をつくることでなければならぬと思っております。そのためには公平公正、フェアな競争が行われるようにしなければなりません。競争の結果、時には勝つこともあれば負けることもあります。ですが、それを負け組、勝ち組として固定化、あるいは階級化してはなりません。誰もが意欲さえあれば、何度でもチャレンジできる社会をつくりあげなければならぬと思います。

そういう「再チャレンジ可能な社会」には、人生の各段階で多様な選択肢が用意されていなければなりません。再チャレンジを可能にする柔軟で多様な社会の仕組みを構築する必要があります。例えば、一八歳の時に受験に失敗した人が、例えば一〇年後、もう一度勉強して人生を変えたいと思えば、働きながら大学や大学院で、社会に役立つ実践的な講座を受講することができるよう。そしてそれは社会から評価され、キャリアアップにもつながる、そういう社会をつくっていく必要があります。私は、一回の失敗で人生が決まる単線社会から、働き方、学び方、暮らし方が複線化された社会に変えていきたいと考えているの

です。

私が提案するところの「再チャレンジ可能な社会」という政策は、必ずしもセーフティネットを意味するものではありません。この政策は、人材を眠らせない、人材を活用していくというものであり、社会に活力を与えることを意図したものです。あります。この政策によって、労働人口が増加し、潜在成長率が高まることを期待しています。また、社会保障費が抑制され、さらには求人税や所得税などの増加を見込むことができれば、最終的には財政再建にも寄与するものと期待しています。さらに、子供を持つ女性が再度仕事に就くことが可能になれば、あるいは仕事を続けることが可能になるシステムをつくりあげることができれば、それは少子化対策にもなるのではないのでしょうか。

政治は未来のためにあります。皆さん、希望を持って、勇気を持って**明日の日本**を創っていきましょう。私は、その先頭に立つて、常に皆さんとともに行動します。





# 間無しに訪れる世界の要人たち

精力的に会合に応じる

3/28 チャートフ  
米国土安全保障長官と



4/5 ロムロ  
フィリピン外務長官と



5/19 サマラウィーラ  
スリランカ外相と



5/17 アナン国連事務総長と



5/16 アブルゲイト  
エジプト外相と



決して諦めない、  
笑顔の奥に潜む強い意志!!  
拉致被害者家族の訪米報告に耳を傾ける



## 多様な機会のある社会をめざして

代議士の肝煎りで、**再チャレンジ推進会議**（議長／安倍晋三）を設置、  
その運営に当たっては、各方面から有識者を集める



再チャレンジ社会の実現を支援するため、  
派閥横断型の「**再チャレンジ支援議員連盟**」が発足!!



「**“機会の平等”の保障こそが政治の役割**」と強調!!



# 長州八人目の総理へ!!

自民党山口県連定期大会において、満場一致で議決!!

その情熱、そのパワーに乾杯!!

安倍晋三先生には、これまで内閣官房副長官、自由民主党幹事長と政務・党務の要職を歴任され、また、今日は内閣官房長官の職にあられ、小泉政権の要、政府報道官としてその重責を担っておられるところであります。

その間、高潔な人格と優れた政治手腕により、緊張感を増している外交・防衛問題をはじめ、構造改革や社会保障問題など、山積する課題に積極的に対応され、着実にその成果をあげられ、深く国民の信頼を得られるとともに、国際的にも我が国の政界において最も期待される人物として高く評価され、また世論調査でも次期首相候補として、抜群の支持を得ておられるところであります。

今日の我が国は、人口減少社会の到来など、歴史的な変革の時代を迎えているといわれておりますが、我が長州はこれまで、明治維新をはじめ歴史の節目節目に多くの人材を輩出し、困難な時代に立ち向かい、豊かな社会の実現に向け、常に主導的役割を果たしてきたところであります。

この時にあつてこそ、安倍先生には、9月に実施される自由民主党総裁選に向けて邁進されるよう念願いたしますとともに、私も自由民主党山口県支部連合会も、山口県民の悲願であります「長州八人目の総理大臣」の実現を目指して、「一丸となって支持・支援していくこと」をお誓い申し上げます。

平成18年6月4日

自由民主党山口県支部連合会  
第63回定期大会



自由民主党  
山口県支部連合会  
会長

河野 博行

安倍晋三先生には、これまで内閣官房副長官、自由民主党幹事長と政務・党務の要職を歴任され、また現在は内閣官房長官として、小泉内閣の要、政府報道官としてその重責を担っておられます。この時に当り、我が山口県議会自由民主党議員団では、平成16年10月31日に「安倍晋三先生を総理にする県議の会」を発足いたしました。本年6月に開催いたしました自由民主党山口県連定期大会では、安倍総理実現の「特別決議」をさせて頂きました。さらに、8月「安倍晋三先生を総理にする山口県本部」を設置いたしました。

その間、高潔な人格と優れた政治手腕で、緊張を増している外交、防衛問題・構造改革や社会保障問題等、山積する課題に積極的に対応され、広く国民の信頼を得られ、国際的にも我が国の政界において最も期待される人物として高く評価され、世論調査でも次期総理候補として、抜群の支持を得ておられます。

この時にあつて安倍晋三先生には、9月の総裁選挙に向けて邁進されるよう念願し、私も自由民主党山口県連も、佐藤栄作先生以来、待望久しい山口県民の悲願であります「長州八人目の安倍総理大臣」実現に向かって、「一致結束、一丸となって、応援申し上げます。」

地元においても、「総理にする会」

設立準備会が立ち上がり、気運が盛り上がる!!



山口県医師連盟より  
特別決議文を  
贈呈される





# がる期待・念願！ 美しい国、日本を



長門市  
中央公民館会場



地元からの力強い後押しを受けて、  
重責覚悟で臨む総裁選！



みんなの思いを体いっぱいを受け止める



数方庭祭

昭恵夫人もエールに応え全力投球！



晋三さんは  
私達の希望の星です

晋緑会 副会長 岡田 勝利

皆様、はじめまして。私は晋三さんの後援会の青年部で、7年前くらいから応援させていただいております。後援会の活動のなかでは、帰郷された晋三さんと身近に接する機会も多くあり、後援者やご家族とのプライベートなさりげない会話の時も、また、ブラウン管のなかで国民へむけて話されている時も、変わりがないのに驚いたりもしています。

正直、私は政治へ興味があつて後援会へ入会したわけではありませんでした。しかし活動に参加し、そのうえ晋三さんご本人と幾度となく身近に接するたびに魅力を感じ、さらに気が付けば「総理、総裁候補の最有力者」ということになっていました。

これから、外交・経済・消費税と難題が山積みで大変だと思いますが、晋三さんであれば必ず「国民が自信と誇りの持てる日本」へ導いてもらえるかと確信しております。

私は郷土から「長州8人目の総理」が誕生する瞬間に立ち会えることを光栄に思い、またこのことは私達の誇りでもあります。晋三さんの更なるご健勝とご活躍を祈念いたしております。



思 い

同志会 豊浦支部 岡崎 覚

私と安倍先生との出会いは、郷土下関での、若者を集めての意見交流会である。当時私は、二十代半ばで、政治に対して特に関心があつた訳でもなく、若い政治家への興味と関心から、足を運んだ記憶がある。

しかし安倍先生の考え方を聞き、話しているうちに、今からの若い世代でも、さまざまな考え方や話を聞き入れてくれる感覚がしたのを覚えている。

今、日本という国の形が変わろうとしている。保守の姿、アジア問題、社会保障の将来、教育問題とさまざまな問題を抱えている。

しかし安倍先生の政治家として、新しい事にチャレンジしていく姿勢と、不動心での政治精神は、まさに新しい挑戦と感じさせられる。

今、ここに長州八人目の内閣総理大臣が現実味をおびようとしている。安倍先生が常に言われている「自信と誇りの持てる日本へ」私も日本の国民の一人として、安倍先生と共にこれから頑張ってみようと思う。



安倍先生に期待すること

長門市主婦 末永恵美子

テレビをつければ、毎日のように親が子を殺した、中学・高校生が人を殺したと胸の痛むニュースが目飛び込んできます。

また、今年に入り経済的にはライブドアショックを初め、社会的信頼を失う事件が起こり、世界的にも戦争やテロ、核・ミサイル実験など不穏な世の中でもあります。

子供たちが親になり、またその子供たちが大人になった時にはどういう世の中になっているのか？ 私がいち母親として望むことは、彼らが安心して生活できる国にしてほしいということです。そのためには、今求められている年金、社会福祉等の問題解決はもちろんのこと、今後は国外からも国内からも、今まで以上に日本国としての真価を問われている時ではないかと思われま。

安倍先生のすばらしい志を実現されることを期待するとともに、ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



# 地元でも盛り上 誇りの持てる



## 安倍晋三官房長官に 大きな期待を

安倍晋三油谷後援会 会長  
西岡 晴美

振り返れば、安倍寛代議士、安倍晋太郎外相、安倍晋三官房長官と、三代にわたってご支援、ご協力を頂いた歴代会長、そして多くのお世話やご協力をくださった会員の皆様へ深く感謝と御礼を申し上げます。その結果、自民党幹事長、幹事長代理、閣内においては官房副長官、現在は官房長官としてご活躍中であります。誠に頼もしく皆様と共に喜んでいるところです。思えば、お父上である晋太郎外相時代からの地元の悲願でありました総理、総裁への道が、今、大きく花開かんとしており、山口県から八人目の総理総裁との声も日増しに高まってきました。外交では、隣国である中国・韓国との関係の修復、特に外交は安倍家のお家芸であり、本領を発揮して頂きたいと思います。内政においては、格差社会の是正が必要で、地方分権と行政改革を勘案して進めるなど、また、一次・二次・三次産業に対しても側面的支援策、再チャレンジ支援策等を積極的に進め、社会保障においても安心して老後が迎えられる社会に重点をおいて頂きたいと思います。さらに、教育基本法の改正については、尊敬しておられる松陰先生のお言葉を胸に教える先生方の為に、そして将来の日本と世界へはばたく子供達の為に、大きな期待をこめて、晋三先生のご健勝、ご活躍を会員と共に祈り申し上げます。

## 海峡メッセ下関 展示見本市会場



激励する会に集まった人、人、人  
熱い思いを胸に、今!



「士たる者は、その志を立てざるべからず。それ志あるところ、気もまた従う。」

吉田松陰の言葉を引き合いに、長州出身の政治家として、しっかりと志を持って頑張っていきたいと、力強い決意を表明。



「お願いします」「頑張ってね」「頼んだよ」

## 人柄に魅了され……

自民党菊川支部 女性部長  
西尾 凌子



安倍代議士御夫妻との出会いは、私が自民党菊川支部女性部長を仰せ付かった時以来です。それまでは、御父上・安倍晋太郎先生の御生存中も遠くから、お姿を拝見しては感激するという様な後援会の一員でした。一昔前、「新年のつどい」で下関の御自宅にお招きいただいた事がありました。その折、気さくで後援会員の一人ひとりに気を配って下さる優しい人柄に魅了され、大ファンになった憶えがあります。

その後、私共の期待どおり代議士は、順調に政務をこなされ、待望の自民党幹事長の誕生は、私達後援会員一同、期待と喜びに包まれました。

そして今、代議士は政界や多くの国民から「ポスト・小泉」と注目されております。山口から八人目の総理になっていただくのが私共の長い間の念願でした。私共支持者は、今度こそ総理に心から応援させていただいております。

誌名「フロンティア」は開拓時代の開拓地の最前線の意があるそうです。今、21世紀は、大きく変動しています。人々の幸せを祈り、世界の平和を願う現代こそ、新しい世代が切り開いていかねばならないと思います。その意味からでも次期総裁は、安倍晋三代議士以外にはいないと痛感しております。

代議士は常に「未来は不変なものでなく、我々の努力によって創り出されて行くもの」と考える。」と明言されていると聞いております。開拓者精神こそ次期総理に不可欠のものです。

日本の未来を創る人、フロンティア・スピリットの人、安倍晋三代議士を、私は熱意をもって応援します。

今年も来ました、大好きな夏、  
大好きなお祭り!

8/13  
SUN



海峡花火大会



1954年(昭29年) 9月21日

安倍晋太郎・洋子夫妻の二男として生まれる

1977年(昭52年) 3月 成蹊大学法学部政治学科卒業

1979年(昭54年) 4月 株式会社神戸製鋼所入社(1982年11月退社)

1982年(昭57年) 11月 外務大臣秘書官

1993年(平 5年) 7月 第40回衆院選に山口1区から初当選

1996年(平 8年) 10月 第41回衆院選に山口4区から2度目の当選  
11月 自由民主党青年局長に就任

1999年(平11年) 10月 自由民主党社会部会部会長に就任

2000年(平12年) 6月 第42回衆院選に3度目の当選

7月 第2次森内閣の官房副長官に就任

2001年(平13年) 1月 第2次森改造内閣の官房副長官に就任

4月 小泉内閣の官房副長官に就任

2002年(平14年) 10月 小泉改造内閣の官房副長官に就任

2003年(平15年) 9月 自由民主党幹事長に就任

11月 第43回衆院選に4度目の当選

2004年(平16年) 9月 自由民主党幹事長代理に就任

自由民主党改革推進本部長に就任

2005年(平17年) 9月 第44回衆院選に5度目の当選

10月 第3次小泉改造内閣の  
官房長官に就任



ここにも、そこにも  
溢れる応援メッセージ



●豊浦町:「鯨の幟」●



●阿東町:「嘉年かし祭り」●



義父は笑って応援してくれるはずである。天国の仲間達とともに……。

総理目前と言われながら、病に倒れてしまった義父……どんなにか無念だったと思う。家族や自分自身のプライベートな幸せなど、ほとんど犠牲にして30数年間の議員生活を駆け抜けた。

家族の一人であった主人も犠牲者だったのかもしれない。しかし今の主人があるのは義父の犠牲があつたことだと思ふ。もし義父が健在であるなら、今の主人はなかったはずだからだ。

人にはそれぞれ天から与えられた使命がある。私は思っている。主人も自分の使命を達成する為にはすべてを犠牲にしても、この国のために力を尽くしていくことだろう。そしてそれを支えていくのが、神様が私に与えてくださった使命である。信じている。



義父が亡くなって15年。最近仏壇に手を合わせる度に、今の主人を見てどう思っておられるのか心の中で尋ねてみる。

## 誌名「フロンティア」について

frontier— すっかり日本語化された言葉ですが、本当の意味は案外知らないものです。「アメリカ開拓期における開拓地の最前線」と『新世紀大辞典』にあり、『広辞苑』には「(科学などの)最前線。未開拓の分野」の意もあると書かれています。待望の21世紀は大きく動いています。幸せと平和を願う新たな時代は、新しい世代が一丸となって切り開いていかねばなりません。いわゆるフロンティア・スピリット……。

安倍代議士は、常に「未来は不変なものではなく、我々の努力によって創り出されていくもの」と考えています。私たちがこの会報誌名を「フロンティア」としたのは、その心意気にぴったり合う言葉だと思ったからです。

「フロンティア」は随時発行しますので、未永いご愛読と益々のご支援をお願い致します。

**フロンティア14号** 2006年(平成18)9月  
発行所／あべ晋三後援会